

東日本大震災関連の「自然災害伝承碑」代表事例

津波の碑
(青森県三沢市)



平成23年(2011)3月11日、東日本大震災によって三沢市は7メートルを超える津波に襲われた。2名の尊い命が失われ、家屋188棟が大きな被害を受けた。

この「津波の碑」には、東日本大震災記念碑と、昭和8年(1933)3月3日に発生した昭和三陸地震の震嘯災記念碑から移設した碑文が設置され、震災の記憶を後世に伝える。

東日本大震災記念碑
(青森県階上町)



平成23年(2011)3月11日、東日本大震災の大津波襲来から尊い人命を守ったのは、過去の津波経験から生まれた言葉「ほら逃げろ津波の時は線路まで」。階上町では10mを超える津波が襲い、家屋の倒壊や漁船の転覆など多くの被害があったが、死者、行方不明者はいなかった。

東日本大震災羅賀大津波伝承の碑
(岩手県田野畑村)



2011年3月11日午後2時46分突然激しい地震に襲われ、3時25分頃に大津波が、その波が引かないうちに第2波が襲ってきた。羅賀地区での死者・行方不明者8名、流出損壊家屋127戸(166戸中)。「津波を甘くみないで より早く、より高い所へ逃げる事」。明治29年(1896)と昭和8年(1933)の津波記念碑も隣に移設されている。

鎮魂碑
(岩手県山田町)



平成23年(2011)3月11日の東日本大震災の大津波により、大浦・小谷島地区では、35名が犠牲となった。

碑の台座には「この台座の下まで津波が来た」ことを刻む。

2011.3.11

東日本大震災 復興の記念碑
(福島県白河市)



東日本大震災(2011)では白河市は震度6強の強い揺れを観測し、ここ葉ノ木平地区では、山の崩落で13人のほか、萱根地区では瓦の落下で1人、大信隈戸では土砂崩れで1人が巻き込まれ、市内合わせて15名が亡くなった。

石巻市雄勝地区慰霊碑及びモニュメント
(宮城県石巻市)



東日本大震災(2011)で犠牲となられた方々への追悼・鎮魂及び震災の記憶の伝承のため、雄勝地区慰霊公園内に慰霊碑及びモニュメントを設置。同敷地内に京都伏見ロータリークラブから寄贈のモニュメントも設置されています。

東松島市震災復興慰霊碑
(宮城県東松島市)



2011年3月11日14時46分に発災した東日本大震災により、東松島市では最大10.35mの津波が発生し、死者1,109人、行方不明24人、浸水面積37平方km(市面積の約30%)、住家14,581棟の被害が発生した。

ふるさと祈念碑
(福島県楢葉町)



平成23年(2011)3月11日、東日本大震災によって楢葉町は震度6強の揺れと10メートルを超える大津波に襲われた。山田浜地区では、津波により1名が犠牲になり全家屋(25世帯)が流失した。更に、福島第一原発事故が発生。ふるさとを失った人々の安らかな繁栄ある生活を願い、震災の記憶を後世に伝える。